

## 平成25年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	佐賀市立西川副小学校		
2 所在地	佐賀市川副町大字西古賀979		
3 校長名	古賀 善充		
4 学級数	15学級	5 実施学年	第3学年
児童生徒数	283人	児童生徒数	49人

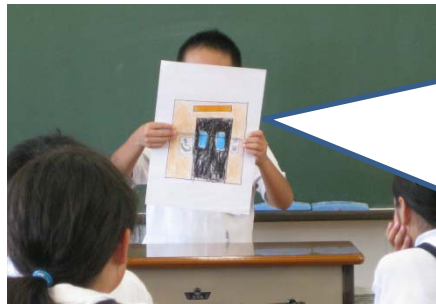
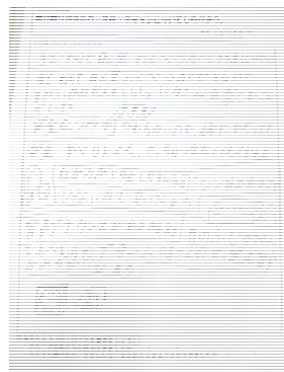
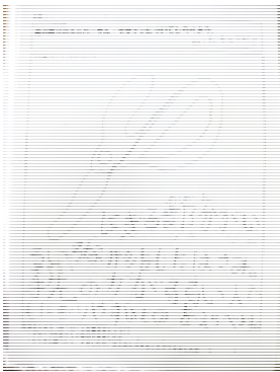
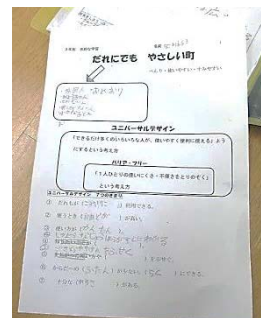
### 6 取組のねらい

- どんな人でも暮らしやすい社会にするために、さまざまな製品や施設が工夫・開発されていることを知る。
- さまざまな人とのふれあいを通して、相手の考えや立場を受けとめ、尊重していこうとする態度の育成を図る。

### 7 取組の実際

#### 【1学期】「だれにでも やさしいまち」

“ユニバーサルデザイン”について学習した。“ユニバーサルデザイン”の言葉すら聞いたことがない児童がほとんどで、“ユニバーサルデザインの7つのきまり”について学習した後、ユニバーサルデザインの品物にはどのようなものがあるのかを本やインターネットを使って調べ、まとめ、発表した。



【感想】駅のホームにあるエレベーターはユニバーサルデザインのもので、誰でも利用しやすいということを知りました。

#### 【2学期】「地域のいろいろな人と仲良くなろう！」

まず、社会福祉協議会の方を招いて、アイマスク体験、車いす体験、高齢者疑似体験を行った。

アイマスク体験では、アイマスクをつけて一人で歩いてみる体験をし、目が見えない人の気持ちを考えた後、介助の仕方を学習した。



【感想】介助をする人は利き手じゃない方の腕をまっすぐに伸ばし、半歩前に立ちます。目が見えない人のことを考えて、ちょうどいいスピードで歩くのが難しかったです。



車いす体験では、車いすの安全な操作の仕方と車いすを使用されている方の介助の仕方を聞いたり体験したりした。



【感想】スロープを下る時は、後ろ向きで下るということを初めて知りました。前を見て車いすの人の様子を見たり、後ろを見て危険なものが無いか確認したりして、きょろきょろしないといけませんでした。大変だなあと思いました。

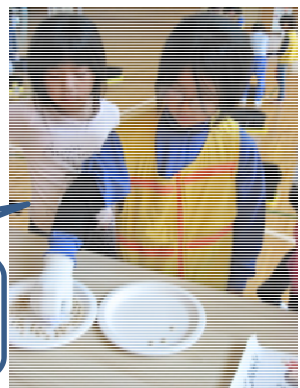
【感想】あんまり速く押されると、「怖いな。」と思いました。もし、車いすを押すことがあれば、今日のことを思い出してゆっくり押してあげたいです。

高齢者疑似体験では、高齢者役と介助者役を二人一組で行った。高齢者役の人は全身装具をつけてただ単に「大変だった。」の感想で終わらないよう、半身のみに装具をつけさせて“体の一部が不自由なだけで感じる苦勞・大変さ”を感じ取らせるよう工夫した。装具では、メガネ（白内障疑似体験用）、重りの入ったベスト、肘・膝固定ベルト、つるつるした白い手袋、手首・足首の重り、杖を身につけて、階段の上り下り、新品のペットボトルのキャップ開け、ペットボトルの水をコップに注ぐ、小さい物（大豆）をつまむ、雑誌をめくる、…の体験活動を行った。

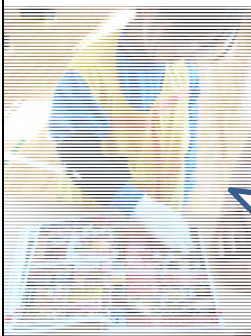
【感想】体の不自由な人が階段から落ちたら危ないので、後ろからついていくというのを初めて知りました。「早く行って！」と言いきったけど、言ったらだめで、何も言わず待ってあげなきゃと思いました。



【感想】手袋をしていたから手が滑ってうまくキャップを回せなかった。自分では開けきれなくて、〇〇さん（介助者役）に開けてもらった。肘が曲げにくくて作業がしにくかった。



【感想】一粒ずつつまむのが難しかった。一度にたくさんつかんで、減らす方が簡単だった。



【感想】つるつるしていて紙の端っかがつまみにくかった。「つまんだ！」と思ったら、何ページか重ねてつまんでいた。だからうちのおばあちゃんは本や新聞をめくる時、指をペロッとして1ページずつめくるのかなあと考えた。



次に、けやき荘（老人ホーム）訪問をして、高齢者の方とふれ合った。

はじめに、手話を取り入れた歌を歌ったり、詩を朗読したりした。次に、グループに分かれて読み聞かせや紙芝居、劇、合奏・合唱、面浮立などを行った。最後に、お年寄りの方と話したり、肩をたたいたりして交流した。

たりして交流した。

高齢者疑似体験で学んだことを活かし、相手の目線に合わせるようかがんで話したり、話を聞き取りやすいようにゆっくり話したりする姿が見られた。



【感想】面浮立を踊って、そのあとにおじいちゃんと話しました。そしたらそのおじいちゃんが、「昔、面浮立を踊ったことがあるよ。」と言っていたのでびっくりしました。

【感想】おばあちゃんに西川副地区の昔のことをいっぱい教えてもらいました。握手をしたら、温かくて気持ちよかったです。



## 8 取組の成果と課題

- UD（ユニバーサルデザイン）とは何かを学習していくうちに、けがをした人や高齢者、小さい子のためだけに関係のあることではなく、子ども達自身も含めて誰にでも関係のあることだととらえられるようになった。
- 身の回りにはいろいろなUDのものがあるということに気づくことができた。
- アイマスク体験、車いす体験、高齢者疑似体験を通して、相手の立場や気持ちを考えることが大切であることを感じる事ができた。
- 高齢者疑似体験や車いす体験の後に、けやき荘（老人ホーム）訪問が出来たので、体験して学んだことを実践に生かすことができた。
- △ 3年生の子どもたちにとって、ユニバーサルデザインとバリアフリーの違いや真の意味を理解するのは少し難しかった。
- △ 学級内や学年内での発表会は行ったものの、全校児童や校外への発信活動はできなかった。今後は、子ども達が全校や地域に向けた発信活動の場を設けていけたらと思う。